ROAD

輝く人たち No.23

自分と向き合い、言葉をつむぐ

PROFILE

大城 勝太（38）

糸満市出身で現在は浦添在住。
座右の銘：一水四見（いっすいしけん）
同じ「水」でも、四通りの見方があることを示した言葉。自分の意見だけではなく、相手の意見も尊重するという自戒の言葉。
将来の夢：FM沖縄のアナウンサーを定年まで勤め上げた後、小さな酒場をひらく。人と人とが繋がり、明日への活力となる場をつくりつつ、そこから生まれる人間の機微をエッセイにすること。

「おはようございます。時刻は7時30分になりました。○月○日FINE！」

爽やかな音楽に合わせて朝の通勤ラッシュ時にFMラジオから聞こえる心地良い声。FM沖縄のアナウンサーで情報番組「FINE！」の月曜日と火曜日のパーソナリティを務めるのは大城勝太さん（38）です。大城さんは2003年11月にFM沖縄に入社し、その翌年4月から今日に至るまで約15年間朝の声として県民に必要な情報を発信し続けています。

高校時代、放送部に在籍していた大城さん。数々のコンクールで賞を受賞するなど、その実績は輝かしく、当然ながらアナウンサー志望だったと思いきや、そうではありませんでした。「実は私、元々は教員志望で、アナウンサーになりたいと思ったことは微塵も無かったんです」と別の夢があったことを明かします。

高校卒業後、大学で小中高の国語の教員免許を取得した大城さんは、大学卒業後、一度は私立高校の教員として勤めますが、諸事情により3ヶ月で退職します。今後のことを考える時間ができたとき、大城さんはふと「これまで就職活動をしたことがない」ということに気付きます。「このままでは生徒に生きた進路指導ができない、次の教員採用試験まで時間があるから就職活動をしてみよう」そう思ってエントリーしたのがFM沖縄でした。

「もともとラジオが好きでしたし、高校時代は放送部にいたので、これも何かの縁だと思い受験したところ、ありがたいことに採用となりました」。

一定期間の区切りを決めて「夢へのステップアップとして勤めてみよう」と思っていた大城さんでしたが、「この仕事が好きだったんでしょうね。入社後、不思議と〝教員になりたい〟という思いは薄れていった」と振り返ります。

入社してからというもの、早く仕事を覚えるために与えられた仕事を必死にこなした大城さん。アナウンサーでありながら番組制作にも携わらなければいけない現実や、自分が会社でどういうキャリアを築いていけばいいのか分からなくなり壁にぶつかります。「正直苦しかったですね。どういう風に目標を立てていいか分かりませんでした。これまで先生になる以外、考えたことがなく、自分と真剣に対話してこなかったツケが回ってきたんだと思います」。

そんな時、カウンセラーに話を聴いてもらう機会がありました。「話しているうちに自分の考えが整理されて、よい喋り手であるには、まず、一流の聴き手でなければならないんだ」ということに気付かされます。「自分の軸が定まり、番組制作に関わる上で感じていた壁が、すぅーっと消えていきました。」と大城さんは表情を緩めます。

そのことをきっかけにカウンセラーの資格を取得したという大城さんはこう言います。「自分という存在と常に向き合った上で相手と接することが本当のコミュニケーションだと思います。人の思いや場の空気、社会の流れなどを感じ取る「感性」って大事だなぁと思います。ゲストから〝話したいことをちゃんと引き出してもらえた〟と言われたり、自分の番組で話したことが誰かの気づきや学びに繋がっていると思うと嬉しくなるんです」と笑みを浮かべます。

軸足がしっかりとできた大城さんはブレません。「仕事をしていると思い通りにいかないときもありますが〝待てば海路の日和あり〟今自分にできるベストは何か、日々自問自答しながら仕事に向き合っていきたいです」そう話す大城さんは、マイクを前に今日もまた、自分と向き合いラジオの向こう側にいるリスナーに寄り添うように言葉を紡ぎ、優しい声で話します。